

たけびし (コード 7510・大証 2 部)

業績推移(連結) (予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
07.9: 第 2Q	33,593	+0.2	832	- 11.5	31.6	7.0	22.2	2.5
08.9: 第 2Q	34,045	+1.3	1,222	+46.9	47.1	8.0	17.0	3.6
08.3	70,168	+2.5	2,084	+2.9	78.8	14.0	17.8	3.0
09.3(予)	69,000	-1.7	2,090	+0.3	71.0	16.0	22.5	3.0

幅広い産業分野と大手優良企業中心のユーザー構成が強み

特色... 京都・滋賀を主力地盤 (08 年 3 月期の同地区の売上構成比率 45.1%) に、産業用電機・電子機器などを幅広く取り扱う、三菱電機の総合代理店を主とした“技術商社”。単に製品を提供するだけでなく、技術ノウハウ、システムデザイン、ソフト開発を手がける“技術商社”を志向。電気機器をはじめ、精密、機械、輸送、建設、電力、公共、商社など、幅広い産業分野にわたる展開力と、特色ある大手優良企業を中心とするユーザー構成は同社の強み。

今期の第 2 四半期は過去最高業績に

5 期連続増収増益に... 09 年 3 月期の第 2 四半期 (4 月 1 日 ~ 9 月 30 日) は、情報通信分野において携帯電話の販売が減少したものの、産業機器システム分野で FA 機器が順調に推移したほか、パートナー商品を含めたシステム関連装置も拡大。売上高は前年同期比 1.3% 増、経常利益が同 46.9% 増となり、第 2 四半期としては増収増益、過去最高業績に。事業別売上は、FA・デバイス事業: 246 億 1,900 万円 (前年同期比 5.5% 増)、社会・情報通信事業: 94 億 2,600 万円 (同 8.1% 減)。FA・デバイス事業では、産業機器システム部門が 147 億 6,300 万円 (同 8.2% 増) に拡大したほか、半導体・デバイス部門も 98 億 5,500 万円 (同 1.8% 増) と健闘。一方、社会・情報通信事業のうち、工場向け大型設備需要の寄与で社会インフラ部門が 54 億 7,600 万円 (同 13.3% 増) に伸びたものの、携帯電話においてキャリアの販売施策変更の影響を受けたことなどから情報通信部門は 39 億 5,000 万円 (同 27.2% 減) に落ち込んだ。

09 年 3 月期の通期はほぼ横ばい見込み

売上微減、経常利益横ばい予想... 09 年 3 月期の通期連結業績予想は、売上高が 08 年 3 月期比 1.7% 減、経常利益は同 0.3% 増の見通し。事業別の売上予想は、FA・デバイス事業: 487 億 7,000 万円 (08 年 3 月期比 1.8% 増)、社会・情報通信事業: 202 億 3,000 万円 (同 9% 減)。FA・デバイス事業のうち、第 2 四半期の好調を受けて産業機器システム部門が 295 億 2,000 万円 (同 6.4% 増) に伸びるものの、半導体で大口顧客向け需要減の半導体・デバイス部門は 192 億 5,000 万円 (同 4.6% 減) に縮小する見込み。社会・情報通信事業では、冷熱大口案件や重電分野での特高設備などで社会インフラ部門が 120 億 3,000 万円 (同 3.2% 増) と健闘する一方、下期についても携帯電話におけるキャリアの販売施策変更の影響が見込まれる情報通信部門は 82 億円 (同 22.5% 減) に落ち込みそう。年間配当は前期実績から 2 円増配し 16 円とする予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。